

今後のまちづくりの提案や広聴のあり方の検討について

令和元年12月9日

山古志支所地域振興課

1 主旨

[主旨]

地域の代表機関として活躍してきた地域委員会のこれまでの活動を振り返るとともに、地域の現状と課題を総合的な視点から照らし合わせながら、今後の地域づくりに相応しいまちづくりの提案や広聴機能の形について、幅広く議論していただきたい。

[背景]

○合併後、支所地域におけるまちづくりの検討や広聴の代表機関として、地域委員会を設置

○15年にわたり、地域における振興策や生活課題への対応などを議論。ふるさと創生基金事業や地域の宝磨き上げをはじめ、少子化を背景とする小学校や保育園の統合、交通対策、コミセンの開設、新たな活動の誘発など、様々な成果を創出してきた。

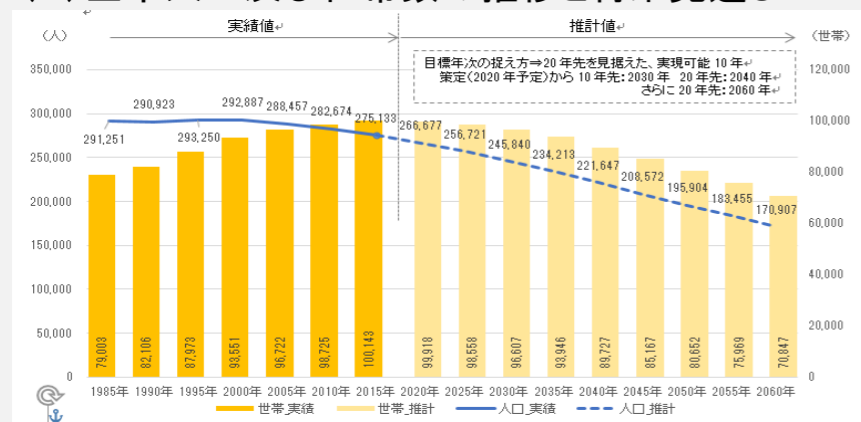
○一方、いずれの地域においても人口減少、高齢化は着実に進んでおり、地域の担い手不足はいずれの地域においても懸念されている。

○そのようななか、地域には区長会や総代会、コミセン協議会など住民代表が集う様々な組織が存在し、広聴機能の効率化を求める意見も散見されるようになってきた。

○また、若い世代の多様な活動が芽生えている地域もあるなかで、次代を担う若者の意見を積極的にまちづくりに活かすことが、地域の活力維持につながるといった意見も聞かれる。

2 山古志地域の現状と課題

(1) 全市人口及び世帯数の推移と将来見通し



※山古志地域の震災前後の比較

	人口(人)	高齢化率(%)
H16.4.1 (震災前)	2,184	37.0
H31.4.1 (震災後)	963	52.3
増減	▲1,221	15.3

(2) 地域の主な課題

- ・診療所医師の高齢化に伴い、地域内医療機関の存続が不安視されている。
- ・公共交通がないため、地元NPO法人が生活の足として地域バスを運行しているが、運行内容や運転手の確保などの課題がある。
- ・除雪体制の維持が必要である。
- ・人口減少・高齢化により、共用施設の維持のほか、行事や道普請などの集落運営に苦慮している。

(3) 広聴組織、団体の状況等

- ・住民団体である山古志住民会議では、地域の将来像を議論し、地域全体が活性化する事業を展開している。
- ・NPO法人中越防災フロンティアでは、地域バスの運行やメモリアル施設の運営、雪かき道場の実践など、地域課題を克服する事業を展開している。
- ・総合型クラブY-GETSでは、スポーツ活動等を通じた地域コミュニティ活性化事業を展開している。

3 山古志地域委員会が果たしてきた広聴機能・まちづくりへの提案

[広聴機能]

- ・会議において、市の予算や事業などの説明をした際に、市の施策の参考となる貴重な意見が得られた。
- ・住民個々の意見を地域委員が吸い上げることによって、多岐にわたる要望等について議論が展開された。

[まちづくりの検討]

- ・日々の生活や来訪者の意見をもとに、地域課題の洗い出しを行い、地域のより良い将来を考え、行政や地元NPO法人、住民活動団体へ問題提起を行ってきた。

(主な意見)

- ・情報通信基盤の整備
- ・錦鯉センターの取壊し
- ・道路の美化 (以上、要望書提出)
- ・集落運営の継続性
- ・診療所医師の高齢化に伴う地域医療存続への不安
- ・除雪体制の確保
- ・職員減少等による支所機能低下への不安
- ・山古志会館のバリアフリー化

4 今後の検討テーマ(案)

次のテーマについて幅広く御意見をいただきたい。

○まちづくりに関する地域住民の意見・提案をお聞きする「広聴の仕組み」として

相応しい形は

○多様な地域課題に対し、実のある検討を柔軟に行う「検討の仕組み」として

相応しい形は

1 主旨

[主旨]

地域の代表機関として活躍してきた地域委員会のこれまでの活動を振り返るとともに、地域の現状と課題を総合的な視点から照らし合わせながら、今後の地域づくりに相応しいまちづくりの提案や広聴機能の形について、幅広く議論していただきたい。

[背景]

○合併後、支所地域におけるまちづくりの検討や広聴の代表機関として、地域委員会を設置

○15年にわたり、地域における振興策や生活課題への対応などを議論。ふるさと創生基金事業や地域の宝磨き上げをはじめ、少子化を背景とする小学校や保育園の統合、交通対策、コミセンの開設、新たな活動の誘発など、様々な成果を創出してきた。

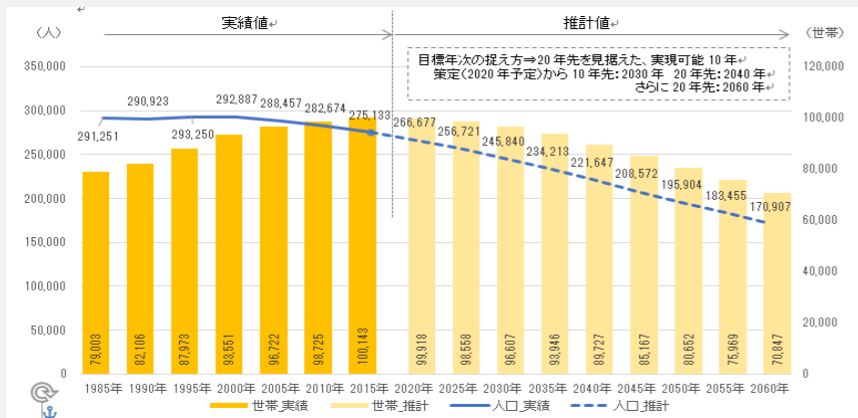
○一方、いずれの地域においても人口減少、高齢化は着実に進んでおり、地域の担い手不足はいずれの地域においても懸念されている。

○そのようななか、地域には区長会や総代会、コミセン協議会など住民代表が集う様々な組織が存在し、広聴機能の効率化を求める意見も散見されるようになってきた。

○また、若い世代の多様な活動が芽生えている地域もあるなかで、次代を担う若者の意見を積極的にまちづくりに活かすことが、地域の活力維持につながるといった意見も聞かれる。

2 〇〇地域の現状と課題

(1) 全市人口及び世帯数の推移と将来見通し



※〇〇地域の震災前後の比較

	人口 (人)	高齢化率 (%)
H16.4.1 (震災前)	2,184	37
H31.4.1 (震災後)	963	52
増減	▲1,221	15.3
増減比率	-55.9%	41.4%

(2) 地域の主な課題 (3つ程度)

- ・高齢者世帯の除雪支援が必要である。
- ・公共交通の減少により、利便性が低下している。

(3) 広聴組織、団体の状況等 (3つ程度)

- ・区長会で住民の意見や要望を集約している。
- ・コミセンでまちづくりに関する話し合いを行っている。
- ・若い世代を中心とした団体(〇〇)が立ち上がり、△△に関する活動を行っている。

3 〇〇地域委員会が果たしてきたまちづくりへの提案・広聴機能

まちづくりへの提案や広聴機能において、地域委員会が果たしてきた役割や成果を記入してください。(各3つ以内)

[まちづくりの提案]

・地域の課題となっていた子育てについて、地域委員会で住民の意見を聴きながら対応策をまとめ、市に提案書を提出したことにより、保育園の統合が実現した。

・若者の居場所づくりについて地域委員会で議論し、〇〇を対象としたイベントを実施することで、若者を中心とする地域活動団体が立ち上がった。

[広聴機能]

・地域委員会で市の予算や事業、防災などの説明をした際に、市の施策の参考となる貴重な意見が得られた。

・地域の課題であった〇〇のデータを入手するため、地域委員会で住民のアンケート調査を行った。

4 今後の検討テーマ(案)

次のテーマについて幅広く御意見をいただきたい。

○まちづくりに関する地域住民の意見・提案をお聞きする「広聴の仕組み」として
相応しい形は

○多様な地域課題に対し、実のある検討を柔軟に行う「検討の仕組み」として
相応しい形は

地域別の人口・高齢化率(震災前・後)

(中之島)

	人口 (人)	高齢化率 (%)
H16.4.1 (震災前)	12,826	21.5
H31.4.1 (震災後)	11,432	31.3
増減	▲ 1,394	9.8

(越路)

	人口 (人)	高齢化率 (%)
H16.4.1 (震災前)	14,506	24.7
H31.4.1 (震災後)	13,608	32.1
増減	▲ 898	7.4

(三島)

	人口 (人)	高齢化率 (%)
H16.4.1 (震災前)	7,442	25.1
H31.4.1 (震災後)	6,733	32.3
増減	▲ 709	7.2

(山古志)

	人口 (人)	高齢化率 (%)
H16.4.1 (震災前)	2,184	37.0
H31.4.1 (震災後)	963	52.3
増減	▲ 1,221	15.3

(小国)

	人口 (人)	高齢化率 (%)
H16.4.1 (震災前)	7,141	34.3
H31.4.1 (震災後)	5,135	44.6
増減	▲ 2,006	10.3

(和島)

	人口 (人)	高齢化率 (%)
H16.4.1 (震災前)	5,090	26.7
H31.4.1 (震災後)	3,970	38.2
増減	▲ 1,120	11.5

(寺泊)

	人口 (人)	高齢化率 (%)
H16.4.1 (震災前)	11,864	27.8
H31.4.1 (震災後)	9,286	37.6
増減	▲ 2,578	9.8

(柝尾)

	人口 (人)	高齢化率 (%)
H16.4.1 (震災前)	24,393	29.4
H31.4.1 (震災後)	17,723	41.5
増減	▲ 6,670	12.1

(与板)

	人口 (人)	高齢化率 (%)
H16.4.1 (震災前)	7,158	23.4
H31.4.1 (震災後)	6,311	34.3
増減	▲ 847	10.9

(川口)

	人口 (人)	高齢化率 (%)
H16.4.1 (震災前)	5,697	27.1
H31.4.1 (震災後)	4,340	38.1
増減	▲ 1,357	11.0

(長岡)

	人口 (人)	高齢化率 (%)
H16.4.1 (震災前)	191,481	20.2
H31.4.1 (震災後)	190,419	28.1
増減	▲ 1,062	7.9